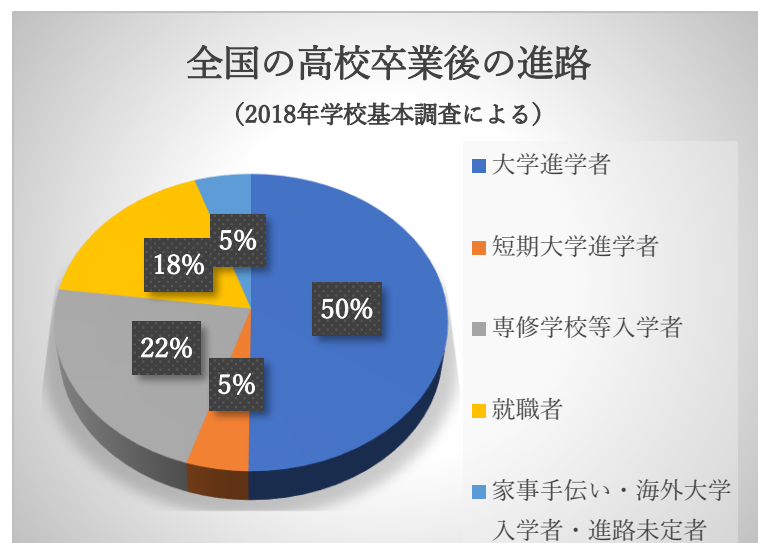


# 38回生（1年生）のみなさんへ vol.2

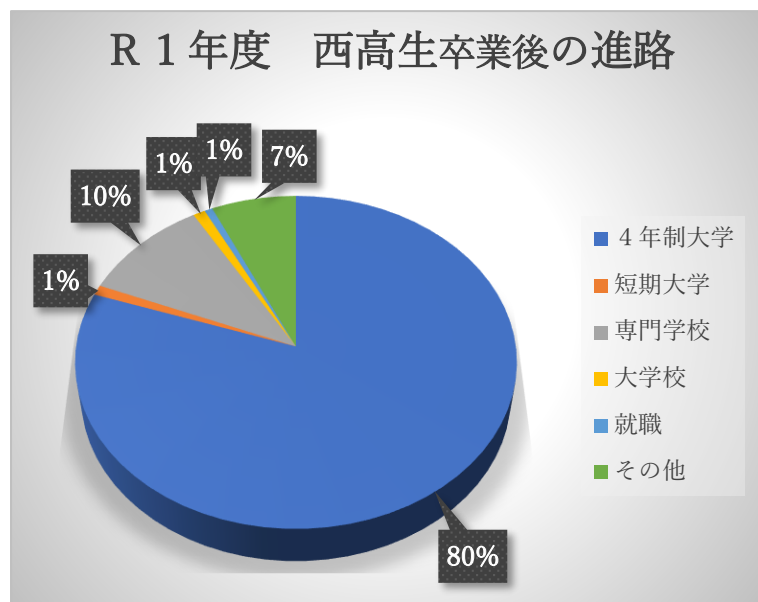
2020.4.22

新入生のみなさん、こんにちは。学年主任の水谷です。昨日HPにアップされた課題にはもう取り掛かりましたか？さっそく新たな週が始まりました。今週も時間割通りに課題に取り組み、後回しにせず、少しでもいいので毎日取り組んでいきましょう！

さて、「進路」や「将来の就きたい仕事」は決まっていますでしょうか？まだ高校1年生なので、焦って決める必要はありません。しかし、1年生の夏頃には文理選択があり、文系に進むのか、理系に進むのかを年内に決める必要があります。そのために、1年生のうちからオープンキャンパスに参加したり、行きたい学校のHPや資料を見たりして、卒業後の進路を考えていかなければなりません！今回は、昨年度の全国、日進西高校の先輩たちの進路先を見ながら、進路の選択肢についてお話ししていきます！



まず、左の円グラフ（円グラフ）を見ると、全国の高校生の約半分以上が4年制の大学に進学しています。短期大学の進学者はわずか5%。専門学校は専修学校の中の専門課程に含まれています。就職者は18%。こうやって見ても、やはり大学を選ぶ人が多いみたいですね。その理由は何だと思いますか？自分なりの答えを考えていきましょう！



次に左の円グラフを見てみると昨年度の西高の先輩たちの進路先がわかります。8割以上が大学進学を選択しています。先輩たちの多くが、志望する大学に合格するために、毎日遅くまで勉強に励んでいました。

専門学校は1割程度。その他には、家事手伝い、浪人生、海外の大学へ進学の人を表しています。

さあ、みんなはどの進路を選びますか？

各進路を選択すると、何歳で社会に出るのか、初任給はいくらくらいなのか、想像するのはなかなか難しいですね。そこで、標準的な数値を表にしてみましたので参考にしてください。

	高卒者の割合	社会に出る年齢	初任給
大学進学者	50%	22歳	21.4万円
短期大学進学者	5%	20歳	17.8万円
専門学校等入学者	16%	20歳	17.1万円
就職者	17%	18歳	16.7万円

**4年制大学**では、専門知識の修得やその分野の研究を深めることができます。さらに、どんな仕事に就くかを考える「猶予期間」が長く、卒業後の進路の選択肢の幅が広いです。そして初任給も一番高いですね。もちろん、4年間の学費はかかります。しかし、ほかの選択肢に比べると、社会ですぐに役立つ技能を身につけるのには適さない場合があります。4年間でどんな仕事に就くかを考えていきましょう。

**短期大学**では、学問的・教養的な部分の両方を身につけることができ、学費は4年制大学よりは抑えられます。資格取得のための教育を充実させた学科が多く、女子学生の比率が高い傾向があります。しかしながら、2～3年間なので学問を深めるのには向いておらず、学びながら就職活動もするので多忙な生活になるかも。

**専門学校**では、実社会ですぐに役立つ技能を中心に学ぶため、就職率は高い。しかし、幅広い知識や教養を身につけるといっては大学に劣り、広い知識や教養が求められる職種では、大学卒の人材のほうが歓迎されやすい。また、授業が将来の仕事に直結しているので、学科やコースの変更はほぼ不可。後悔しないためにも、将来就きたい仕事をしっかりと考えてから決断しよう！

**就職**には、「社会人」としての自覚、「礼儀作法」や「身だしなみ」といった基本を身につけることが必要とされる。また、工業・農業高校などで専門技術を身につけている人の約半数がこのルートを選ぶため、普通科の高校卒業者の選択肢の幅は少し狭くなるかもしれない。日頃から、「3年間の成績」や「出席状況」、「生活態度」などを意識しながら高校生活を送ろう。

今回は、進路についてお話をしました！この休校中期間に、毎日勉強をすることで、様々な**選択肢**や**可能性**が広がります！目標や将来のことを自分で考えて、家族と相談しながら、「どんな人生を歩みたいか」、「どんな大人になりたいか」を日々考えていきましょう！それでは、また次回！！

学年主任 水谷